

‘14地域のSTORY’

～ vol.9 新北島 ～皆で考えた町の姿～今に引き継ぐ～ これまでも。これからも。

新北島地域は江戸時代の新田開発によって生まれた土地です。明治から大正にかけては野菜畑を中心とした農地で、特産物はさつまいもや水菜、大根、金時人参など。大和川・十三間堀川から引かれた農業用水路を利用して玉出や住吉方面に運ばれていたそうです。昭和に入ってから台風の影響や低湿地帯ゆへの排水不良などの悪条件を克服しながら優秀な野菜供給地として名を馳せ、特に金時人参は農家一軒当たりの栽培高が全国一といわれたほどの特産物となりました。



金時人参の収穫風景



往時の水路・小舟

しかし昭和30年代半ばになると、社会構造の急激な変化の中で、農業用水の確保や後継者難などの問題が持ち上がるとともに、住民からも新たな市街地整備への機運が高まってきました。こうして昭和41年に土地区画整理事業*の都市計画決定がなされ、新しいまちづくりがスタートしたのです。

事業は住民参加によって進められ、昭和51年には皆さんの思いを反映した「新北島将来ビジョン」がまとめられました。平成元年に道路や建物などハード面の整備は完了しましたが、事業が終息した今もなお人々が連帯を深め、いきいきと充実した暮らしを実現するためのまちづくりが続いています。

*土地区画整理事業：道路・公園・河川などの公共施設を整備・改善し、土地の区画を整え宅地の利用の増進を図る事業。

さざんか新北島協議会 益 正行会長(写真左)

昭和50年10月に新北島に来ました。その当時、高い建物はまだ無くて、南港まで見渡せていました。南港で花火が上がったのが見えたことを覚えています。住宅やマンションが建って、そして学校と、どんどんまちができていってね。思い返すと感慨深いです。

平成10年に町会長になって以来ずっと地域のことに取り組んでいます。今も皆でいろいろと考えながらやっていますが、特に高齢者の方は喜んでくださっているのではないかと思います。ふれあい喫茶や食事サービスのよう、家から出て、他の人とコミュニケーションできる場所があるのはとても大切で、特に力を入れています。



新北島地域ネットワーク推進員 中山 久美子さん(写真右)

ネットワーク推進員として、地域の皆さんの見守りや相談に乗るなどの活動をしています。きっかけは町会長をしていた父に勧められまして、最初は断ったんですが(笑)。

やってみて、今は楽しいです。自分より年長のボランティアの皆さんがお母さんのようで、温かい気持ちになるんです。

一時期を除いて、ずっと新北島に住んでいます。子どもの頃は、町会対抗の運動会があって、これが本当に本当に楽しかった記憶があるんです。コーポ対市営住宅とか、対抗戦で、運動の得意な人を総動員して、勝負にこだわる(笑)。ああいうのってすごく盛り上がり一体感がでるんですよ。

今は無くなってしまいましたが、いつか復活できたらいいなと、皆で話しています。



高齢者食事サービスの様子

子どもの頃に、市電で海水浴に行くたびに広がる畑を見ていました。今そこに暮らしていることに何か不思議な縁のようなものを感じます。住之江区の中では比較的新しいまちだけど、課題は他の地域と一緒にね。活性化を考えないといけない。しっかりやっていかねばと。

「町会・自治会」に加入しませんか？



防災訓練の様子

ご近所同士でコミュニティづくりのためのイベントや災害時の減災に取り組むための自主的なボランティア組織として、「町会・自治会」があります。「町会・自治会」に加入することによって、ご近所づきあいが深まり、普段の情報交換やいざというときの助け合いが容易になります。

また、回覧板などでは、「町会・自治会」が実施している取組みや、暮らしに役立つ情報をお知らせしています。

「町会・自治会」に加入したいけれども、どうやって入るのかわからないという方は一度区役所にお問い合わせください!!



町会・自治会に入ってみよ!



【問合せ】住之江区役所 協働まちづくり課
☎6682-9734

町会・自治会に関する情報はこちら→



地活協とは 地域活動協議会の略称。地域活動協議会は、おおむね小学校区単位で、連合町会やPTA等のさまざまな団体が皆で一緒にまちづくりに取り組んでいくための仕組みです。住之江区の地活協は、「〇〇地域活動協議会」、「さざんか〇〇協議会」の名称で活動しています。